「学校・家庭・地域連携協力推進事業（学校を核とした地域力強化プラン）」
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域未来塾」（宮城県石巻市）

取組の概要や経緯

震災による児童生徒を取り巻く住環境や地域コミュニティの変化の影響は大きく、10年を経過しても解消しているものではない。
そこで、地域ボランティア講師を活用し、学校単位で児童生徒が放課後等に落ち着いて学べる放課後学習活動等を実施し、児童生徒の自主的な学びと学習習慣の定着を助長し、児童生徒に学習の基礎・基本を身に付けさせるとともに、地域人材としての地域ボランティア講師を活用することで地域のコミュニティの活性を図る。

内容

「放課後等学習活動」
学校とコミュニティ・スクールが連携し、地域ボランティア講師による放課後学習活動等を学校単位で実施する。令和5年度から地域ボランティア講師の活用を行うため、4月から6月はコミュニティ・スクールとの調整期間とし、その後、7月から2月の期間内で、準備が整った学校から順次実施することとした。

今後の方向性

令和６年度に市内すべての小中学校においてコミュニティ・スクールを導入することから、地域ボランティア講師の活用促進を進め、実施校を拡充させることにより、地域コミュニティの活性化を進めていく。

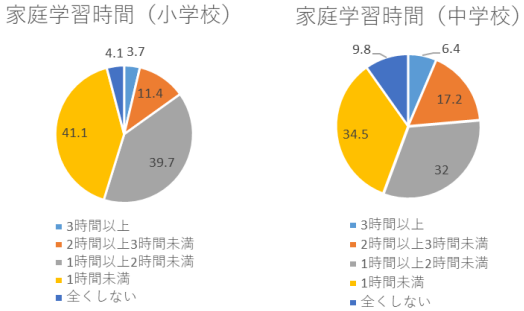
ポイント

〇小学校３校、中学校１校で実施。
・湊小学校（実施回数１５回　延べ参加児童数６８人）
・釜小学校（実施回数３０回　延べ参加児童数８２９人）
・大街道小学校（実施回数２６回　延べ参加児童数１，３２４人）
・青葉中学校（実施回数１５回　延べ参加生徒数１２６人）

成果

「令和５年全国学力・学習状況調査」アンケート

〇家庭学習については、小学校では約９６％が、中学校では約９０％が実施している。
〇地域ボランティア講師を活用した学習活動に参加することにより、意欲的に学習に取り組む姿勢が身に付き、家庭学習の習慣化につながった。

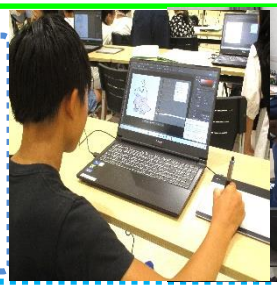


「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「加美町地域未来塾事業」（宮城県加美町）

取組の概要や経緯

学校の授業以外で学習を行う機会がない児童生徒が多く、学校以外で学習を行うことに対する指導等が、学校・家庭の共通の課題となっている。そこで、自主学習の定着や学習機会の確保等を目的として「夏の寺子屋」及び「放課後寺子屋」を実施している。そのほか、地域人材を活用し、地域及び外国の自然環境や歴史・文化を学ぶ「ふるさと寺子屋」を実施し、児童生徒の興味関心の幅を広げ、自主的・自発的な学びを醸成している。



内容

1. 「ふるさと寺子屋」
   - A. 町学芸員による加美町の自然環境や歴史・文化に関する出前授業を、町内小学校６年生を対象に実施。
   - B. ドイツ出身の加美町SEAフォーゲル・マークスによる国際理解教育に関する出前授業を実施。
2. 「夏の寺子屋」
   夏季休業中の７月３１日～８月５日のうち６日間、各小学校や公民館を会場に町内小中学生に対して協働教育支援員及び地域の大人や学生等ボランティアの協働教育サポーターが学習支援を行った。午前の部と午後の部で各２時間実施した。また、体験学習として令和５年度はデジタルイラスト制作、ドローンプログラミング教室、メディアリテラシー講座を合計で１５回実施した。
3. 「放課後寺子屋」
   中学生を対象に、１０月～２月、週１回放課後２時間、協働教育支援員や協働教育サポーターが学習支援を行った。

ポイント

①「ふるさと寺子屋」…A. ５月～７月に町内小学校全８校で実施。
　　B. １２月～１月に希望があった町内小中学校6校で全9回実施。
②「夏の寺子屋」…小学生80名、中学生39名が参加。支援員・サポーター35名で指導。
③「放課後寺子屋」…中学生のべ959名が参加。支援員・サポーター5名で指導。のべ31回実施。

成果

・ふるさと寺子屋…町の歴史や文化、外国の地理や文化に触れることにより、対象児童生徒の興味関心の幅が広がった。
・夏の寺子屋…令和５年度は体験学習の回数を増やし、興味・関心を持っていただき、例年より参加者が増えた。
・放課後寺子屋…自主学習への意識の高まりにより、例年より参加者が増え、学習に粘り強くなること、苦手克服へと繋げていくことができた。

今後の方向性

・学校や参加者から継続してほしいという要望があるため、令和6年度も内容や実施回数を検討しながら実施する。
・参加者が増えるよう、魅力的な内容になるよう検討していく。
・県内の大学や近隣の高校と連携し、協働教育支援員や協働教育サポーターの確保に引き続き取り組んでいく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「元気わくやふれあい町づくり事業」及び「地域未来塾（パワーアップ教室）」（宮城県涌谷町）

取組の概要や経緯

【地域未来塾】
統括コーディネーター及び学習支援員を配置し、地域と学校をつなぎ、地域住民が参画することを通して、教育活動の充実と学びを核とした地域コミュニティの再生を図る。

内容

【地域未来塾】
町内の児童（小学校3～6年）及び生徒（中学校1～3年）を対象に、夏季休業中4日、冬季休業中4日の計8日間、3会場（公民館1箇所、小学校2校）で実施。学習指導だけでなく、学習習慣の定着を目指し、学習の取り組み方や時間配分について助言するようにした。

ポイント

【地域未来塾】
統括コーディネーターは各会場を回り、児童生徒の様子がよくわかっている学習支援員との連携が図られ、どの地域も一体となった学習支援が受けられる。

成果

【地域未来塾】
宿題に積極的に取り組めただけでなく、長期休業中の学習時間も増やすことができた。それ以上に新たな課題に取り組む児童生徒も見られ、地域で安心して、意欲的に取り組めた。

今後の方向性

【地域未来塾】
長期休業中も学習習慣が継続することをねらい、児童生徒個々が主体的に学習に取り組む場と時間を提供してきた。与えられた学習から、自ら教材を用意し自学に向かう児童生徒が増えてきたことは、これまでの成果と考える。
今後もこの事業を通じて、主体的に学習に取り組む児童生徒を増やすことを目指したい。
長期休業中の取組において、学習支援員の支えを得ながら、落ち着いた学習空間の確保と学習に集中できる時間を提供していきたい。

また、次年度も新たな参加者のさらなる普及促進を図っていきたい。